

ICSE2015 において招待講演を行いました (2015/12/12-13)

テーマ：都市脆弱性評価、建物被害関数、ハザードマップ、ヤンゴン
場所：ヤンゴン工科大学 (ミャンマー連邦共和国、ヤンゴン)

2015年12月12日から13日にかけて、ミャンマーのヤンゴン工科大学 (YTU) において 6th International Conference on Science and Engineering (ICSE) 2015 が開催されました。本国際会議は、主にアジア諸国の研究者や技術者が最新の科学技術に関する分野について発表、議論することを目的として年に一度開催されています。当研究所の村尾修教授 (地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野) は2日目となる12月13日に「Consideration of Making Building Vulnerability Maps for Yangon City」と題した特別講演を行いました。村尾教授は、SATREPS (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム) 「Development of a Comprehensive Disaster Resilience System and Collaboration Platform in Myanmar」プロジェクトの中で、建物被害関数の構築とハザードマップ作成という役割を担っており、講演では、東京都の地域危険度評価に関する意義、概要、そして使用データについて紹介し、ヤンゴンにおける脆弱性評価を進めていくうえで抱えている課題について報告しました。セッションの中では、関連する地区の建物のフラジリティカーブ構築に関する発表等もあり、活発な議論が展開されました。本会議には YTU の教員や学生も多数参加し、こうした関係者との相互の情報交換により、今後の更なる研究成果が期待できることとなりました。



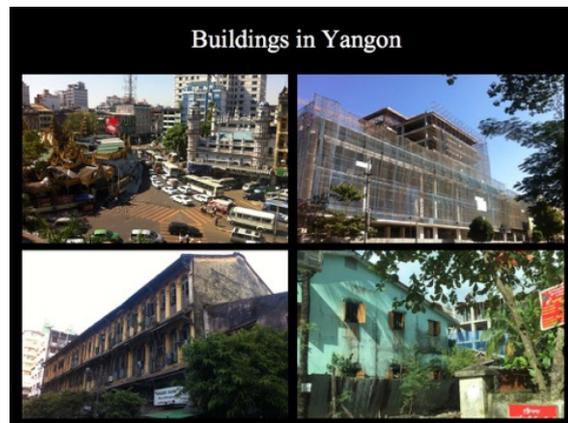
オープニングセレモニーの様子



招待講演者の紹介パネル



会場の様子



ヤンゴン市内の建物特性